

令和2年度 シラバス

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）			
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>経済学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input checked="" type="checkbox"/>選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input type="checkbox"/>選択</td></tr> </table>	経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択				
学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択				
英文表記	Macro Economics II	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	フカサワ ヤスオ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	深澤 泰郎	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位			
授業のテーマ	マクロ経済学Ⅰに基づき、モデル、理論面について学びます。					
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. その上で、マクロ経済学の理論的な理解が深まる。 3. 上記により、日本経済の問題点が理解でき、社会人と求められる水準を超えた水準に達する。 					
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通させ、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、その上で自ら考える姿勢を身につけさせたい。					
授業計画						
第1回	日本経済の立ち位置					
第2回	国民経済計算の考え方・使い方					
第3回	資金循環表と国際収支統計の作り方・見方					
第4回	労働統計					
第5回	マクロ経済モデルの基本的な考え方					
第6回	閉鎖経済の虫期モデルの展開（1） 基本的な考え方					
第7回	閉鎖経済の虫期モデルの展開（2） 金融政策の可能性					
第8回	新しいケインジアンのマクロ経済モデル					
第9回	開放経済モデルの展開（1） マクロ経済と貿易・資本取引					
第10回	開放経済モデルの展開（2） マンデル・フレミングモデル					
第11回	開放経済モデルの展開（3） 固定相場制度化のマンデル・フレミングモデル					
第12回	安定化政策					
第13回	金融市場と貨幣市場（1） 債券市場と株式市場					
第14回	金融市場と貨幣市場（2） 貨幣市場のメカニズム					
第15回	金融市場と貨幣市場（3） 動学的な環境における金融政策					
第16回	定期試験					
授業時間外の学習	テキストの該当箇所は事前に通読し、疑問点があれば質問すること（1時間）。毎回ではないが、小テストを行うので、確認のための復習をすること（1時間）。					
履修条件	「マクロ経済学Ⅰ」の単位を取得済みのこと。以降か同時に「経済成長論」も履修すること。					

受講のルール	教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
テキスト	斎藤誠「父が息子に語るマクロ経済学」(勁草書房、2014年)、 斎藤誠ほか3名「マクロ経済学」(有斐閣、2016年)
参考文献・資料	金融商品情報一口知識 (1) 「スポットレートとディスカントファクター」深澤泰郎、 その他、授業前に配布するペーパー
成績評価の方法	授業中の質問に対する答え(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%) 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	掲示板でお知らせします。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。日本経済の先行きはかなり暗いですが、そこで個人として生きるための知識が身につきます。

令和2年度 シラバス

科目名	経営戦略論	科目分類	■専門科目群（第1グループ）		
			□総合科目群（第2グループ）		
			経済学科	□必修	■選択
		学科	□必修	□選択	
英文表記	Strategic Management	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	いしかわ まさはる	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	石川 雅敏	実務家教員 担当科目	<input checked="" type="radio"/>	修得単位	2 単位
授業のテーマ	企業の競争戦略の基礎を理解する。				
到達目標	<p>企業間の業績の違いを説明する経営戦略論ではいくつかの異なった視点から理論的な枠組みが作られている。</p> <p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経営戦略に関する主な考え方の枠組みを学べます。 2) 理論を基礎として実際の経営戦略を考えるきっかけを提供します。 				
授業概要	4つの異なる競争戦略について、それぞれのアプローチに関する基礎的な知識を解説します。				
授業計画					
第1回	イントロダクション 経営戦略論で学ぶこと。				
第2回	経営戦略の理論				
第3回	経営戦略の4つのアプローチ				
第4回	ポジショニング・アプローチの基本				
第5回	ポジショニング・アプローチの長所と課題				
第6回	資源アプローチの基本				
第7回	資源アプローチの長所と課題				
第8回	ゲーム・アプローチの基本				
第9回	ゲーム・アプローチの長所と課題				
第10回	学習アプローチの基本				
第11回	学習アプローチの長所と課題				
第12回	戦略思考のバランス				
第13回	全社戦略				
第14回	日本企業の課題				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からぬ用語は調べてノートにまとめておいてください。(1時間程度)				
履修条件 受講のルール	経営学基礎論を履修している事が望ましい。				
テキスト	「競争戦略論」青島矢一・加藤俊彦、東洋経済新報社 (2003)				
参考文献・資料	「ケースブック 経営戦略の論理」伊丹敬之・西野和美、日本経済新聞社 (2004)				
成績評価の方法	小テスト(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。				

	レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 15:00~17:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は製薬会社でバイオ医薬品の開発などの実務に携わってきました。この授業を通して企業が市場経済の中で競争に勝ち抜くためにどのような競争戦略を用いているかについてお話をたく思います。
学生へのメッセージ	企業に就職される方のみならず、公務員を希望される方も企業が社会の中でどのように戦略的に行行動しているのかを理解しておくことはとても重要です。 一緒に市場経済における競争戦略を学びましょう。

令和2年度 シラバス

科目名	経済学入門	科目分類	■専門科目群（第1グループ）
			□総合科目群（第2グループ）
			経済学科 ■必修 □選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Introduction of Economics	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年
ふりがな	あらはた かつみ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	荒幡 克己	実務家教員 担当科目	○ 修得単位 2単位
授業のテーマ	経済財政白書の解説を通して、日本経済の課題を掴み、経済問題に触れてみることを狙いとします。厳密な分析データの解釈や正確な理解は求めず、まずは経済問題に触れてみることを目的とします。		
到達目標	経済財政白書の8割方が理解できるようになることを目指します。		
授業概要	経済財政白書を各論ごとに解説していきます。ところどころに経済学、特にマクロ経済学の基礎知識がないとわかりにくい高度な分析もありますが、そういうところは、飛ばしていきます。分かり易いグラフの説明などの比重が多くなりますが、それでも十分に経済財政白書を読んだ充実感が得られます。		
授業計画			
第1回	経済白書から学ぶ経済学：理論よりもまず実践から		
第2回	過去の経済白書とトピックス		
第3回	令和元年度白書を読む(1) 海外経済の動向と日本経済への影響		
第4回	令和元年度白書を読む(2) 家計の所得・消費動向		
第5回	令和元年度白書を読む(3) 人手不足と生産性、賃金、物価の動向		
第6回	令和元年度白書を読む(4) Society 5.0 がもたらす経済効果		
第7回	令和元年度白書を読む(5) 財政・金融の動向		
第8回	中間テスト		
第9回	令和元年度白書を読む(6) 多様な人材が労働参加する背景		
第10回	令和元年度白書を読む(7) 働き方の多様化に向けて求められる変革		
第11回	令和元年度白書を読む(8) 労働市場の多様化が経済に与える影響		
第12回	令和元年度白書を読む(9) 日本の貿易・投資構造の変化		
第13回	令和元年度白書を読む(10) 世界貿易の変化や最近の海外経済の動向が日本経済に与える影響		
第14回	令和元年度白書を読む(11) グローバル化が進展する中での日本経済の課題		
第15回	復習		
第16回	期末テスト		
授業時間外の学習	日本経済新聞の第18面、または20面あたりの「マーケット・商品」の欄に、商品別の市場動向が掲載されています。これを読んで、疑問に思うところを授業終了直後、オフィスアワー等に質問してください。経済学への理解が深まります。		
履修条件 受講のルール	テキストに沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。		
テキスト	内閣府、「令和元年度経済財政白書」		
参考文献・資料	前年度や、毎年7月に公表される、最新年の白書を参考にすることもあります。		
成績評価の方法	平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%をおよその目安として、総合的に評価します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		

	<ul style="list-style-type: none"> 出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	<p>担当科目がない曜日の第5限の時間帯 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>農林水産省では、大臣官房企画室で、各省庁作成の白書の作成過程に関与したことがあります。この経験を生かして講義していきます。</p>
学生へのメッセージ	<p>経済財政白書というと、難しそうで、やや敷居が高い、と感じる学生が多いかもしれません、経済活動に携わる多くの社会人が、経済学部出身のみならず、法学部、更には文学部出身者でも普通に読む書物です。確かに、その記述の中には、経済理論を駆使して、解釈が難しいものも含まれていますが、そうしたものでさえ、文学部出身者の読者を想定して、わかりやすく、理論的知識がなくても理解できるように書かれています。仮に、文章の理解が難しかったとしても、グラフを見るだけでも、実に豊かで、的を射た有益な情報が盛り込まれています。恐れずに、経済白書にチャレンジしましょう。</p> <p>「一年前では早すぎる。理論を学んだあとの方がよいのではないか」という声も聞こえてきそうですが、それを承知の上で、敢えて最初にこれを読みます。そこには、これから学ぶ経済学専門用語が垣間見られます。深く理解できなくとも前後関係から使われ方がわかります。正確に理解できるようになる前に、まず触れてみることが重要です。</p>

令和2年度 シラバス

科目名	ビジネス倫理学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）
		経済学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
		学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Business Ethics	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	にしまき じょうじ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	西巻 丈児	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位
授業のテーマ	ビジネスの価値基準（例えば、利潤や業績の高低など）と、人間の行為における善惡（例えば、「～するべきだ」、「～するべきではない」など）を扱う倫理学の価値基準を掛け合わせたところに成立する、応用倫理学の一分野が「ビジネス倫理学」である。 例えば、非倫理的なことをしているが業績は好調である企業や、人のためになっているが業績は低調な企業などの事例に関して、それぞれの業績と倫理的な価値を共に高くしていくためには、いかにしたらよいのかを考えるのがその一例である。 営利を目的とする企業の基本的性格を理解するとともに、ビジネス倫理の実践が企業の存続に必要不可欠であることを理解できるようになる。		
到達目標	・ビジネス倫理学の本質と意味を説明できる。 ・ビジネスにおいて、さまざまな倫理観が要請されることを説明できる。		
授業概要	現代社会においては、さまざまな場面で倫理の必要性が叫ばれている。倫理の必要性は、企業側だけに求められるものではなく、消費者側にも倫理観に敏感になることが要求されている現状がある。 この授業では、まず理論的な倫理を理解することから始め、ビジネスの場面で実際に起こったケースを精査することによって、現場からの実践としての倫理の侧面も学ぶ。その結果、理論と実践を併せ持った、より現状に則したビジネス倫理を考えていく。		
授業計画			
第1回	イントロダクション ーなぜビジネス倫理学を学ぶのかー		
第2回	ビジネスの倫理学とは		
第3回	理論としてのビジネス倫理		
第4回	倫理的利己主義とリバタリアニズム		
第5回	功利主義と費用・便益分析		
第6回	義務論に基づくビジネス倫理		
第7回	正義論に基づくビジネス倫理		
第8回	実践としてのビジネス倫理		
第9回	従業員関連の倫理		
第10回	顧客関連の倫理		
第11回	地域社会の倫理		
第12回	国際ビジネスの倫理		
第13回	制度としてのビジネス倫理1 ー企業内制度ー		
第14回	制度としてのビジネス倫理2 ー民間支援制度ー		
第15回	本授業の総括		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	予習：(1.5 時間程度) 企業の行動と倫理に関する情報について、書籍・ニュース・ウェブなどから授業内で紹介するので、そ		

	<p>こでは何が問題とされ、問題の所在がどこにあるのかなど、自分なりに分析しておくこと。</p> <p>復習：(1.5 時間程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業を振り返って内容を整理する。 ② 理解できていない事柄を、次の授業で適確に質問できるよう用意する。
履修条件 受講のルール	予習・復習を必ずして、積極的に授業に参加すること。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	『ビジネスの倫理学』梅津光弘 丸善出版 その他は、授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（45%）、定期試験（55%）を総合的に評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金が未納の場合は試験を受けることができません。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。
オフィスアワー	月曜日 10:40～12:10 火曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他も可能性あり。
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	将来社会に出て、企業の一員となったときにどのような行動をとるべきか、というみずから倫理観を培うことを自分に課すようにすること。 消費者という現在の身分においては、ビジネスの倫理に敏感になること。

令和2年度 シラバス

科目名	自然科学概論 I	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）			
			<input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>全学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input checked="" type="checkbox"/>選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input type="checkbox"/>選択</td></tr> </table>	全学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
全学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択				
学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択				
英文表記	Natural Science I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	村中 孝司	実務家教員 担当科目	<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>修得単位</td><td>2単位</td></tr> </table>	修得単位	2単位	
修得単位	2単位					
授業のテーマ	自然界の構成要素、生物と生物の関係、生命の進化や起源など、これまで得られている科学的な知見を概観することを通して、科学の諸問題に対する理解を深める。					
到達目標	<p>① 生物・生命の生き様を概観し、生態系の成り立ちや機能を理解することを通して、人間社会とどのように関わっているか考える。</p> <p>② 生物の進化のみちすじを探り、生物の適応や種間関係などから、人類が自然環境の一因であることに対する理解を深める。</p>					
授業概要	自然界における生命現象、特に生物と生物の関係、生態系、生物の進化に着目して論じる。					
授業計画						
第1回	ガイダンス	自然、生命、環境				
第2回	環境と生態系	主体—環境系、環境要因、環境条件、資源				
第3回	動物の行動と適応①	動物の社会、集団行動、群れ				
第4回	動物の行動と適応②	繁殖と適応度、利他行動と包括適応度、社会性昆虫				
第5回	植物の繁殖と適応①	光合成と物質生産、植物の馴化、進化的安定戦略				
第6回	植物の繁殖と適応②	花の役割、種子の繁殖戦略、栄養成長				
第7回	食物連鎖と食物網	食物連鎖、生産者と消費者、生態系ピラミッド				
第8回	微生物	分解者、菌類、バクテリア、藻類、原生動物				
第9回	個体群	個体群成長、個体群動態、環境収容力				
第10回	種間関係①	種と種のさまざまな関係、捕食・被食、摂食				
第11回	種間関係②	競争、寄生、共生				
第12回	進化の法則	遺伝の法則、自然選択、進化の道筋				
第13回	動物の進化	個体発生と系統発生、脊椎動物と節足動物、胎生				
第14回	植物の進化	花と種子の進化、光合成系の進化、送粉共生系、共進化				
第15回	非細胞性生命体、地球外生命体					
第16回	定期試験					
授業時間外の学習	自然界をよく観察すること。予習1時間、復習1時間程度必要。					
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、欠席した学生には配布しません。					
テキスト	講義中に紹介する。					
参考文献・資料	星元紀ほか『初步からの生物学』放送大学教材、濱田嘉昭『科学的探求の方法』放送大学教材					
成績評価の方 法	試験(70%)、レポート・課題提出・小テスト(30%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。					

	<ul style="list-style-type: none"> 出席確認時に不在だった場合は、欠席扱いとします。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度以降入学者 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) 平成 27 年度以前入学者 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び 実務を活かし た授業内容	
学生への メッセージ	自然現象から生き方を学びましょう。

令和2年度 シラバス

科目名	経済政策学	科目分類	■専門科目群（第1グループ）
			□総合科目群（第2グループ）
			経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	野口 秀行	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位
授業のテーマ	日本経済の再興と第4次産業革命への対応		
到達目標	日経新聞が読解できる。		
授業概要	アベノミクスによりデフレスパイラルからの脱却は目前に迫っている。その一方で、世界は大変革の時代を迎えるとしている。日本はその変革とは何か、そしてその変革に対応できるのだろうかを解き明かす。		
授業計画			
第1回	日本の置かれている状況把握～トランプ政権・イギリスのEU離脱、日本の外交政策の転換		
第2回	リーマンショックとは何だったのか～世界経済のバブル崩壊と日本経済の停滞		
第3回	米国とEUと日本などの先進国の停滞と中国・インド・ロシアなどの新興国の台頭		
第4回	円高と主要産業の国際競争力の喪失～東芝とシャープの経営破綻		
第5回	先進国による超金融緩和政策と産業構造改革～世界経済の牽引役の交代～新興国から日米へ		
第6回	中国をはじめとする新興国金融市場の脆弱性～民間企業の借り入れ著増にともなうリスクと米国の利上げ		
第7回	原油価格等資源価格の下落と日本のエネルギー政策～脱炭素政策と金融市場の変化		
第8回	行き詰まる中韓経済と朝鮮半島情勢の見方～米国のアジア政策と北朝鮮の核開発と韓国の親中反米政権樹立		
第9回	第4次産業革命とは何なのか～IoT AI BD シンギュラリティについて		
第10回	仮想通貨がもたらした金融構造の変革～ビットコインとブロックチェーンそしてICO		
第11回	オープンイノベーションと日本の科学技術政策～コネクテッドインダストリーズ		
第12回	アベノミクスの総仕上げとしての地域創生～如何に地域の生産性を引き上げるのか		
第13回	ポストアベノミクスとしての第4次産業革命～今後5年間でAIはここまで進む		
第14回	未来投資戦略 2018～Society 5.0の実現に向けた改革～機械が人間に代替する職業とは		
第15回	2020年の世界経済の行方を展望する～コロナウィルスの克服と復興		
第16回	期末試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	経済の基礎的な知識を有すること		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		

	平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
実務経験及び実務を活用した授業内容	
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます

令和2年度 シラバス

科目名	現代経済入門	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）
		経済学科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
		学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introductory of Modern Economy	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	野口 秀行	実務家教員 担当科目	<input type="checkbox"/> 修得単位 2単位
授業のテーマ	日本経済の特徴とその問題点を、世界経済と関連付けて学習する。		
到達目標	各受講者には日本経済の全体像と、個別専門領域に取り組むための基礎事項を修得して欲しい。		
授業概要	戦後の日本経済の変遷を学びつつ、第4次産業に向けた経済システムの大変革を学びます。		
授業計画			
第1回	世界経済が直面する4大リスクとは：IMFの世界経済レポート		
第2回	バブル経済崩壊後のアベノミクスとその出口戦略		
第3回	バブル経済の崩壊と産業構造改革：グローバル化、IT化、規制緩和		
第4回	金融ビッグバンと金融市場の民主化への要求：ブロックチェーンと仮想通貨の誕生		
第5回	リーマンショックと世界経済の構造変革：G7からG20へ		
第6回	世界経済は米中摩擦の激化による減速局面から脱却できるか：低迷を続ける世界経済		
第7回	軍事情報包括保護協定（GSOMIA）破棄の顛末と日韓関係：日韓関係のリセットは当面不可能！		
第8回	トランプ大統領弾劾と今秋の米国大統領選挙の行方		
第9回	激化する米中貿易戦争の行方と中国経済：米中合意を国営企業改革に利用する習近平の強かさ		
第10回	「自由で開かれたインド太平洋戦略」（FOIPS）とASEAN		
第11回	日本企業のアウトバウンドM&Aの増加		
第12回	データ専制主義への対応と第4次産業革命		
第13回	量子コンピュータ（量子超越性）・5G（ファーウェイ）・AIの最新動向		
第14回	中国の經常収支赤字転落とドイツ銀行経営破たん危機		
第15回	コロナウィルスにもなう世界経済の低迷に対しどのように対応するべきか		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	なし。		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生		

	優 (100~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
実務経験及び実務を活用した授業内容	
学生へのメッセージ	日本経済についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたくなるような授業としたい。

令和2年度 シラバス

科目名	地球環境学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）
			<input type="checkbox"/> 経済学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			<input type="checkbox"/> 学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Environmental Sociology	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	村中 孝司	実務家教員 担当科目	修得単位 2 単位
授業のテーマ	地球規模の環境問題から、地域社会における環境問題まで、さまざまなスケールでの環境問題について学習する。また、環境と経済・社会との両立を、持続可能な発展に注目して理解する。		
到達目標	① 地球環境と人間社会の関係を対峙するものとみなすか、共生すべきもののみなすかと考え、持続可能な社会の構築のために必要な知識と考え方の定着を目指す。 ② 自然環境の社会科学的価値を検討し、環境開発行為、生物多様性の損失などによる問題点の定量かを試みる。日本が抱える食やエネルギーの問題を理解し、地球環境問題の視点に立って、これから日本社会のあり方を考える。		
授業概要	環境問題から、環境と経済の両立、環境政策について論じる。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 環境問題とは何か、循環型社会とは何か		
第2回	公害と環境問題の歴史 産業革命と工業化、公害、大気と水		
第3回	地球温暖化 地球温暖化の原因と影響、フィードバックループ		
第4回	オゾン層破壊 オゾン層の生成と消失、フロン類、人体や自然界への影響		
第5回	酸性雨・酸性霧・酸性雪 酸性雨の原因と影響		
第6回	水質汚濁と化学物質汚染 富栄養化、農薬・除草剤、重金属類、海洋汚染、生物濃縮		
第7回	砂漠化と森林破壊 農業形態のあり方の変化による土地の劣化、過放牧、過耕作		
第8回	自然保護に関する制度、生物多様性 生物多様性とは何か、生物多様性の階層		
第9回	生物多様性を脅かす3つの要因① 開発・乱獲、分断・孤立化、管理放棄		
第10回	生物多様性を脅かす3つの要因② 外来生物の侵入による影響、生態系サービス		
第11回	生態系の保護と保全 里山・里海		
第12回	環境の修復と環境アセスメント 回避・低減・代替、アセスメントの実態、緑化		
第13回	環境価値の評価 環境の経済的価値		
第14回	エネルギー問題 3Rとゴミ問題		
第15回	世界人口と食料問題 食料自給率、フードマイレージ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	地球環境問題や環境評価について、常に目を光らせておくこと。新聞やニュースなどから、知識を入手しておくこと。予習1時間、復習1時間程度必要。		
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、欠席した学生には配布しません。 自然科学概論I・II、環境論I・IIを同時に履修することを推奨する。		
テキスト	講義中に紹介する。		
参考文献・資料	植田和弘・大塚直『新訂 環境と社会』放送大学教材		
成績評価の方 法	試験(70%)、レポート・課題提出・小テスト(30%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受ける		

	<p>できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席確認時に不在だった場合は、欠席扱いとします。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度以降入学者 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) 平成 27 年度以前入学者 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び 実務を活かし た授業内容	
学生への メッセージ	環境と経済の両立、持続可能な発展について理解を深めましょう。

令和2年度 シラバス

科目名	国際経済学 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）			
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>経済学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input checked="" type="checkbox"/>選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input type="checkbox"/>選択</td></tr> </table>	経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択				
学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択				
英文表記	International Economics I	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	坂元 浩一	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位			
授業のテーマ	国際経済学の理論と政策を学ぶ。					
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。 					
授業概要	<p>経済学の中のそれぞれの分野について、理論、歴史、政策が3本柱です。この国際経済学の講義では、理論が中心となります。国際経済取引の枠組みとして国際収支を学び、その構成要素である外国貿易と為替レートの理論を学びます。理論の応用として、またその理解を深めるために、政策も適宜説明します。事例として、世界の多くの国を取り上げますが、最も扱うのは日本経済です。教員の実際の海外での経験を交えながら、理解を深めてもらいます。海外直接投資などについては、国際経済学IIで扱います。</p>					
授業計画						
第1回	イントロダクション（国際経済の内容、アプローチ）					
第2回	世界経済、地域経済、日本経済の現状					
第3回	国際収支I（基礎事項とトレンド）					
第4回	国際収支II（捉え方、枠組み）					
第5回	国際収支III（基礎事項とトレンド）					
第6回	為替レートI（基礎事項とトレンド）					
第7回	為替レートII（理論）					
第8回	為替レートIII（理論と政策）					
第9回	外国貿易I（基礎事項とトレンド）					
第10回	外国貿易II（基礎理論）					
第11回	外国貿易III（応用）					
第12回	外国貿易IV（制度）					
第13回	外国貿易V（政策）					
第14回	米日経済関係					
第15回	米欧経済関係					
第16回	定期試験					

授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件受講のルール	ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。理論中心の授業ですので、図や表、そして統計を論理的に理解するつもりで受けてください。
テキスト	なし（下記の『教養系の国際経済論—総合理解から次の一步まで—』に準拠して進めます）
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総理解から次の一步まで—』（電子書籍）大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頃草書房、1996年。
成績評価の方法	【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 14:50～16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活用した授業内容	
学生へのメッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんのが国際経済をより身近に捉えられるようになると考えます。

令和2年度 シラバス

科目名	社会福祉学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）
			経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Social Welfare	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	藤本 剛	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位
授業のテーマ	社会福祉の基礎を理解し、低所得者、児童家庭、障がい者、高齢者の福祉の現状と課題を考えます。		
到達目標	最新の社会福祉政策の流れを理解し、今後の福祉のあり方について理解を深めます。		
授業概要	少子高齢化が進展し、社会が大きく変化していく中で、社会福祉のありようも大きな変化に見舞われています。この授業では、社会福祉の基礎的な知識や考え方を学びながら、時代と共に変化する社会福祉の現状、課題、政策などについて私たちの生活とのかかわりの中で捉え、共に考えていきたいと思っています。また、福祉サービスを支える経済的基盤、人的資源についても触れていく予定です。		
授業計画			
第1回	社会福祉の考え方と社会福祉援助技術について概観し、社会福祉の基礎となる考え方を理解します。		
第2回	社会福祉を取り巻く環境やこれまでの歩みについて理解を深めます。		
第3回	社会福祉の仕組みについて、法律・行政・財政などを概観します。		
第4回	社会福祉サービス利用の仕組みと機関・施設・担い手について理解します。		
第5回	低所得者福祉① 生活保護の基本となる考え方や仕組みについて学びます。		
第6回	低所得者福祉② 生活保護の現状と課題について考え、その他の低所得者福祉について学びます。		
第7回	児童家庭福祉① 児童福祉の理念を理解し、関係する法律や制度について学びます。		
第8回	児童家庭福祉② 関係する様々な施設について、その種類や目的、概要、課題などを学びます。		
第9回	児童家庭福祉③ 子ども虐待について、現状、対策、課題などを学び、理解を深めます。		
第10回	障がい者福祉① 「障がい」についてどう捉えるか、国際的な取り組みや基本理念について学びます。		
第11回	障がい者福祉② 障がい者福祉の法律・制度を概観し、理解を深めます。		
第12回	障がい者福祉③ 障がい者福祉の現状と課題について考えます。		
第13回	高齢者福祉① 高齢者福祉の法律・制度・施設について概観し、理解を深めます。		
第14回	高齢者福祉② 高齢者福祉の現状と課題について、その取り組みを考察します。		
第15回	高齢者福祉③ 少子高齢社会の在り方について、共に考えます。		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	新聞に載る福祉関連の記事に目を通し、記事で取り上げられている内容の理解に努めてください。ネットを利用するのも一つの方法です。出席カードへのメッセージなど、歓迎します。		
履修条件 受講のルール	特にありませんが、関心をもって受講してください。		
テキスト	プリント、パワーポイント、ビデオなどを使用します。		
参考文献・資料	石田慎二/山縣文治編著『社会福祉・第5版』ミネルヴァ書房、『国民の福祉と介護の動向 各年版』厚生労働統計協会 『厚生労働白書 各年版』厚生労働省		
成績評価の方法	試験(50%)、レポート・ビデオの感想・意見等(30%)、受講態度(20%) ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は、試験を受ける		

	できません。
オフィスアワー	火曜日の12時～13時 木曜日の18時～19時
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度以降入学者 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ・平成27年度以前入学者 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。関心をもって積極的に予習・復習や情報収集を行ってください。

令和2年度 シラバス

科目名	アフリカ開発論	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）			
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>経済学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input checked="" type="checkbox"/>選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td><input type="checkbox"/>必修</td><td><input type="checkbox"/>選択</td></tr> </table>	経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択				
学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択				
英文表記	African Development	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	坂元 浩一	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位			
授業のテーマ	アフリカ経済とその開発について、基本構造と現状を理解する。					
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <p>1. アフリカと日本やフランスとの間の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を理解できるようになります。援助や経済協力についても理解できるようになります。</p> <p>2. アフリカ全体の経済や主要国の経済の動向を知ることができます。</p> <p>3. 関連ニュースをより理解できるようになります。</p>					
授業概要	<p>本講義は、アフリカを対象として、その経済構造と日本などとの経済関係を学びながら、アフリカの經濟を中心とした開発を論じます。いわゆるブラック・アフリカに対応するサハラ以南アフリカを対象としますが、アラブ圏の北部アフリカも少し扱います。經濟を中心としますが、人口、教育、政治など經濟外の条件も扱います。</p> <p>講義方法として、アフリカは未知の大陸であり、日本との経済関係は強くはないですから、日本やフランスとの関係を多く取り上げながら進めます。フランスについては、2014年に教員（坂元）が白水社の『ふらんす』誌に12回連載した内容を使います。テーマは、「フランスと旧仮領アフリカの経済関係」でした。</p> <p>教員はこれまでアフリカ全域の主要国、19か国を38回訪問したことがあります。国連専門家として、青年海外協力隊の実績が最もあるマラウイに4年間滞在しました。その他の例としては、東アフリカのサファリ王国ケニア、南部アフリカの「インド洋の貴婦人」モーリシャス、西アフリカの「象牙の奇跡」を実現した Ivory Coast/Côte d'Ivoireなどを取り上げます。パリにおけるアフリカ調査を含めた現地経験を紹介します。</p>					
授業計画						
第1回	イントロダクション（主な内容、アプローチ）					
第2回	アフリカと世界					
第3回	アフリカと日本					
第4回	アフリカ経済の基本構造					
第5回	アフリカ経済の経済外の条件					
第6回	経済開発論の理論と政策					
第7回	援助を含む経済協力の理論と政策					
第8回	アフリカと日本の経済関係					
第9回	アフリカとフランスの経済関係					
第10回	アフリカと日本の経済協力					
第11回	アフリカとフランスの経済協力					

第12回	事例： 東部アフリカ
第13回	事例： 南部アフリカ
第14回	事例： 西部・中部アフリカ
第15回	事例： 北部アフリカ
第16回	定期試験
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件 受講のルール	なし
テキスト	なし
参考文献・資料	外務省『国際協力白書』各年版。 坂元浩一『教養系の国際経済論—総合理解から次の一步まで—』(電子書籍) 大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頃草書房、1996年。
成績評価の方法	【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 14:50～16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。アフリカ経済の理解は、今後の世界を見る上で役立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんがあなたをより身近に捉えられるようになると考えます。

令和2年度 シラバス

科目名	簿記入門 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群（第1グループ）
			<input type="checkbox"/> 総合科目群（第2グループ）
			経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	くにい のりお	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	國井法夫	実務家教員 担当科目	修得単位 4単位
授業のテーマ	日商簿記3級の範囲をわかりやすく説明するとともに、問題演習を行う。		
到達目標	日商簿記3級合格		
授業概要	普通科出身の学生にもわかりやすく解説していく。		
授業計画			
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座・当座買い越しについて	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	後期定期試験
第16回	前期定期試験	第32回	
授業時間外の学習	復習と問題演習		
履修条件 受講のルール	欠席しない。授業は静かに聞くこと。		
テキスト	中央経済社 3級商業簿記 〈2020年度版〉		
参考文献・資料			
成績評価の方法	試験の得点(60%)・レポート提出(10%)・学習態度(30%)等で総合評価します。		
オフィスアワー	金曜日 5時間目		
成績評価の基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
	平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
実務経験及び実務を活かした授			

業内容	
学生への メッセージ	真面目な授業態度・欠席しない学生を希望します。

令和2年度 シラバス

科目名	統治機構	科目分類	■専門科目群（第1グループ）	
			□総合科目群（第2グループ）	
法律学科	□必修	■選択		
国際観光学科	□必修	■選択		
英文表記	Frame of Government	開講年次	■ 1年	□ 2年 □ 3年 □ 4年
ふりがな	わたなべ たけし	開講期間	■前期	□後期 □通年 □集中
担当者名	渡 部 翔	実務家教員 担当科目		修得単位 4単位
授業のテーマ	立憲主義とは何かを理解したうえで、権力分立の原理など、日本国憲法が定める日本の統治構造の基本的な枠組みを理解し、説明できる。			
到達目標	憲法が定めている国の政治のしくみの概要を理解するとともに、統治機構と人権保障の相互関係が、「手段」と「目的」の関係になっているのだということが説明できるようになる。			
授業概要	国会、内閣、裁判所を中心とするわが国の政治のしくみ（統治機構）について解説します。統治機構は、国家権力の濫用から国民の自由を守るためにシステムと位置づけられます。わが国の政治で採用している権力分立のしくみや、権力相互間の牽制手段等について理解を深めてもらいたいと考えております。			
授業計画				
第1回	はじめに 統治機構で学ぶ内容	第17回	司法権の概念・範囲	
第2回	明治憲法の特徴	第18回	司法権の限界	
第3回	日本国憲法の制定	第19回	裁判所の組織と権能	
第4回	国民主権	第20回	司法権の独立	
第5回	天皇制	第21回	財政民主主義	
第6回	権力分立の原理	第22回	予算の法的性格	
第7回	国会の地位	第23回	地方自治の意義・本旨・地不公共団体	
第8回	国会の組織と活動（1）二院制 衆議院の優越	第24回	条例制定権の限界	
第9回	国会の組織と活動（2）国会議員の地位 会期	第25回	憲法の保障	
第10回	国会と議院の権能（1）立法権 その他の権能	第26回	違憲審査制	
第11回	国会と議院の権能（2）議院の自律権 国政調査権	第27回	違憲判断の方法	
第12回	行政権と内閣 行政の概念 独立行政委員会	第28回	憲法改正の手続と限界	
第13回	内閣の組織と権能（1）内閣の構成員	第29回	平和主義（1）戦力の不保持 交戦権の否認	
第14回	内閣の組織と権能（2）内閣の権能	第30回	平和主義（2）自衛権 憲法9条の政府解釈	
第15回	議院内閣制	第31回	期末試験	
第16回	中間試験			
授業時間外の学習	教科書を使って、予習（1時間程度）および復習（1時間程度）の習慣を確立する。わからないところは図書館で調べる。新聞の政治面を継続的に読む。こうした地道な努力をすることで、より理解を深めることができます。			
履修条件 受講のルール	「人権」（後期開講予定）もあわせて履修してください。適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には、原則として配布しませんので、友人同士でコピーするなどしてください。			
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』（第7版）（岩波書店・2019年）。			
参考文献・資料	六法は必携。憲法判例百選I・II（第6版）（有斐閣・2013年）。適宜、資料を配布します。			
成績評価の方法	【レポート（20%）、定期試験（80%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。			

	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日 11:00～12:00 および金曜日 11:00～12:00 としますが、所用により不在の場合もあります。なお、これ以外の時間帯でも、研究室に在室している場合は、随時可能です。
成績評価の基準	<p>平成 28 年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</p> <p>平成 27 年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	統治機構の学習は、条文を踏まえつつ、どのような制度になっているのかについて理解することが重要になります。煩を厭わずに、条文を参照しましょう。

令和2年度 シラバス

科目名	親族・相続法 (家族法)	科目分類	■専門科目群（第1グループ）			
			□総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>法律学科</td><td>□必修</td><td>■選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td>□必修</td><td>□選択</td></tr> </table>	法律学科	□必修	■選択
法律学科	□必修	■選択				
学科	□必修	□選択				
英文表記	Civil Law (general part)	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	さとう かつえ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	佐藤 克枝	実務家教員 担当科目	<input type="radio"/> 修得単位 4単位			
授業のテーマ	婚姻、離婚、親子、扶養および相続など家族に関する制度について学び、さらに法的な問題について考えることができるようになる。					
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1. 親族法、相続法のそれぞれについて、基本事項を説明することができる。 2. 事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、意見を述べることができます。					
授業概要	家族における法的な問題とその解決方法を学びます。また、少子・高齢化、生殖補助医療技術の発展など、民法制定時には想定されていなかった問題についてもふれていきます。					
授業計画						
第1回	民法における家族法の位置づけ、家族法の歴史	第17回	相続人の範囲と順位、相続分（相続人・法定相続分のルール、代襲相続、法定相続分の修正）			
第2回	親族法概観（親族関係の概念、範囲、相互扶助）	第18回	相続次格・相続排除、相続回復請求権			
第3回	婚姻の要件（婚姻障害、届出、婚姻意思の合致、婚姻の無効・取消し）	第19回	相続財産の範囲（包括継承、相続の対象となる権利義務①）			
第4回	婚姻の一般的効果（夫婦間、夫婦以外の第三者との関係）	第20回	相続財産の範囲（相続の対象となる権利義務②）			
第5回	夫婦財産制	第21回	相続の対象とならない権利義務 祭祀財産			
第6回	離婚（離婚の方法）	第22回	法定相続分の計算			
第7回	離婚（離婚の効果）	第23回	遺産共有・遺産分割（1）			
第8回	婚姻外の男女関係（婚約・結納、内縁）	第24回	遺産共有・遺産分割（2）			
第9回	実子（親子関係の基本的枠組み、嫡出子と非嫡出子）	第25回	相続の承認・放棄（単純承認・限定承認・放棄） 遺産分離			
第10回	生殖補助医療により生まれた子の親子関係	第26回	相続人の不存在（相続人不在における財産の清算、特別縁故者による財産分与請求、国庫帰属）			
第11回	養子（制度の概観、普通養子、離縁、特別養子）	第27回	遺言（遺言能力、方式、遺言事項、効力、執行）、撤回			
第12回	親権（親権の行使、制限、終了）	第28回	遺言（記載要領）			
第13回	後見（成年後見制度の概観、法定後見、任意後見、登記）	第29回	遺留分（遺留分権者と遺留分の割合、算定の基礎となる財産、遺留分減殺請求権）			
第14回	扶養（権利義務、順位、方法、扶養請求権の処分禁止等）	第30回	後半のまとめ			
第15回	前半のまとめ	第31回	後期定期試験			
第16回	相続概観（相続の意義、特徴、相続の開始） 中間試験					
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からぬ用語は調べてノートにまとめておいてください。（2時間程度） 2. 単元毎に、前回講義内容の確認（まとめチェック）を行います。講義の復習をしっかりと行ってください。（2時間程度）					
履修条件	民法入門の単位を修得済みであることを前提に講義を進めます。					
受講のルール	教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原					

	原則として配布しませんので、友人同士でコピーしてください。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。
テキスト	床谷文雄ほか『新プリメール民法5 家族法（第2版）』法律文化社
参考文献・資料	本山敦ほか『家族法』（第2版）日本評論社、佐藤義彦ほか『民法V—親族相続法（第4版）』有斐閣、田山輝明『事例で学ぶ家族法（第4版）』法学書院、『民法判例百選III親族・相続』有斐閣、青竹美香ほか『START UP 民法⑤親族・相続判例30！』有斐閣
成績評価の方法	<p>【試験（中間40%、期末40%）、受講態度20%】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10・水曜日14：40～16：10
成績評価の基準	<p>平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は公務員として法務業務に携わり、コンプライアンスのほか、法律相談も担当しました。親族・相続は、民事の法律相談では大半を占める内容です。実務の場面で現れる問題点についても話したいと思います。
学生へのメッセージ	家族法（親族法・相続法）では、家族という身近な関係を対象としている対象としているので比較的とかかわりやすい領域です。積極的な履修を期待します。

令和2年度 シラバス

科目名	刑法各論	科目分類	■専門科目群（第1グループ）			
			□総合科目群（第2グループ）			
			<table border="1" style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>法律学科</td><td>□必修</td><td>■選択</td></tr> <tr> <td>学科</td><td>□必修</td><td>□選択</td></tr> </table>	法律学科	□必修	■選択
法律学科	□必修	■選択				
学科	□必修	□選択				
英文表記	Criminal Law (Crimes)	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年			
ふりがな	おかげ しょうへい	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中			
担当者名	岡崎 頌平	実務家教員 担当科目	修得単位 4 単位			
授業のテーマ	個別の犯罪の成立に関するルール、他の犯罪類型との関係が理解できるようになる。					
到達目標	受講者は、本講義を履修することによって、個別の犯罪の成立に関するルール、他の犯罪類型との関係について正確に理解することができるようになる。					
授業概要	本講義では、刑法総論で学習する刑法の基本原則と一般的な犯罪成立要件の知識にも言及しながら、個別の犯罪の成立・不成立に関するルールについて学習します。 なお、この授業では、教科書は予習・復習用とし、レジュメに基づいて行います。					
授業計画						
第1回	イントロダクション；生命に対する罪① 殺人罪	第17回	財産に対する罪⑦ 横領罪1			
第2回	生命に対する罪② 墮胎罪、遺棄罪	第18回	財産に対する罪⑧ 横領罪2			
第3回	身体に対する罪① 暴行罪、傷害罪	第19回	財産に対する罪⑨ 背任罪、盗品等に関する罪			
第4回	身体に対する罪② 凶器準備集合罪、過失致死傷罪	第20回	財産に対する罪⑩ 毀棄・隠匿罪			
第5回	自由に対する罪① 脅迫・強要罪	第21回	公共危険罪① 騒乱罪・放火罪1			
第6回	自由に対する罪② 逮捕・監禁罪、略取・誘拐・人身売買罪	第22回	公共危険罪② 放火罪2			
第7回	自由に対する罪③ 性的自由に対する罪1	第23回	公共危険罪③ 往来妨害罪			
第8回	自由に対する罪④ 性的自由に対する罪2、住居侵入罪	第24回	取引等の安全に対する罪① 通貨偽造罪、文書偽造罪1			
第9回	人格的法益に対する罪	第25回	取引等の安全に対する罪② 文書偽造罪2、その他の偽造罪1			
第10回	信用及び業務に対する罪	第26回	取引等の安全に対する罪③ その他の偽造罪2			
第11回	財産に対する罪① 窃盗罪	第27回	風俗に対する罪			
第12回	財産に対する罪② 強盗罪1	第28回	国家の存立に対する罪・国交に関する罪			
第13回	財産に対する罪③ 強盗罪2	第29回	国家の作用に対する罪① 公務執行妨害罪			
第14回	財産に対する罪④ 詐欺罪1	第30回	国家の作用に対する罪② 司法作用に対する罪、汚職の罪			
第15回	財産に対する罪⑤ 詐欺罪2	第31回	定期試験			
第16回	財産に対する罪⑥；中間試験 恐喝罪					
授業時間外の 学習	各回の授業で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと。（予習：120分） それぞれの回で扱った内容について、レジュメ等を使って振り返ること。（復習：120分） ※レジュメはポータルサイトを通じて配布するので、確認すること。					

履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰ（刑法入門）の単位を修得済みであることが望ましい。 ポータルサイトを通じて事前配布されるレジュメを印刷して持参すること（講義中に配布しない）。 最新の六法を持参すること。
テキスト	①井田良『入門刑法学・各論〔第2版〕』有斐閣(2018) ②井田良・佐藤拓磨『刑法各論〔第3版〕』弘文堂(2017) ③松原芳博『刑法概説』成文堂(2018) ①を基本的には教科書とするが、同じ著者による入門書としては②もあるので、挙げておく。 また、総論・各論の両方をコンパクトに説明している最近の教科書としては、③が挙げられる。
参考文献・資料	十河太朗ほか『刑法各論判例50!』有斐閣(2017年)；山口厚ほか『刑法判例百選Ⅱ〔第7版〕』有斐閣(2014)；西田典之ほか『判例刑法各論〔第7版〕』有斐閣(2018)；西田典之(橋爪隆補訂)『刑法各論〔第7版〕』弘文堂(2018)
成績評価の方法	試験70%（中間試験30%、定期試験40%）、小テスト30% 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜1・2限
成績評価の基準	平成28年度（2016年）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度（2015年）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。

令和2年度 シラバス

科目名	債権総論	科目分類	■専門科目群（第1グループ）		
			□総合科目群（第2グループ）		
法律学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択				
国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択				
英文表記	Civil Law (Law of Obligations)	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	いしかわ しん	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	石川 信	実務家教員 担当科目	修得単位	4単位	
授業のテーマ	債権法の基礎法理を解明し、とくに金銭債権の回収方法を修得する。				
到達目標	1. まず、近代民法が想定した債権関係（財産取引の流れ）を理解しよう。 2. 次に、財産取引上の権利をどう実現するか（債権回収方法の諸相）を知ろう。 3. さらに、財産取引紛争を解決する能力を養い、各種法律系試験に合格しよう。				
授業概要	債権総論は、抽象的な用語が多く学ぶに小難しいが、要するに「債権の発生から消滅まで」のプロセスを規律している。さらに大胆に換言すれば「金銭債権の回収方法」を示唆している。 授業では、民法典第399条～第520条に準拠しつつ、講義順を工夫して、債権関係（財産取引の流れ）を解明し、5つの債権回収方法を概説し、応用力（実務力、解決力）を養うよう配慮する。今般の民法（債権法）改正も解説する。				
授業計画					
第1回	債権法序説1—ガイダンス、債権法の意義と体系	第17回	債権の強制回収5—債権者の受領遅滞、判例紹介（鶴ウイルス事件 or 硫黄鉱石売買事件）		
第2回	債権法序説2—二つの財産権（物権と債権）の関係	第18回	債権の事前回収1—債権譲渡の法理（概説、債権譲渡の対抗要件）		
第3回	債権法序説3—債権と請求権、物権的請求権とのちがい	第19回	債権の事前回収2—債権譲渡制限特約の効力		
第4回	債権法序説4—債務と責任、自然債務（責任なき債務）	第20回	債権の事前回収3—特殊な債権譲渡（集合債権の譲渡、将来債権の譲渡）、債務引受け		
第5回	債権の種類1—特定物債権と種類債権、判例紹介（漁業用タール事件）	第21回	債権の事前回収4—債務引受け、民法改正（債権譲渡）の課題		
第6回	債権の種類2—金銭債権と利息債権、利息制限関係法の解説	第22回	第三者からの回収1—債権者代位権（概説、債権者代位権の転用）		
第7回	債権の種類3—特定物債権と金銭債権の比較	第23回	第三者からの回収2—詐害行為取消権（概説、破産法との関係）		
第8回	債権の任意回収1—弁済の法理（弁済概説、ニセの債権者に対する弁済）	第24回	第三者からの回収3—判例紹介（遺産分割協議の詐害事例）		
第9回	債権の任意回収2—判例紹介（詐称代理人取引事例、ATM預金払戻し事例）	第25回	第三者からの回収4—破産手続法との関係、民法改正（債権保全）の課題		
第10回	債権の任意回収3—相殺の法理（相殺概説、法定相殺の要件）	第26回	保証人からの回収1—多数当事者の債権関係総説		
第11回	債権の任意回収4—判例紹介（預金担保貸付事例、相殺と差押事例）	第27回	保証人からの回収2—保証債務総説、保証人の義務、保証人の求償権		
第12回	債権の強制回収1—債務不履行責任（総説、債務不履行責任の要件）	第28回	保証人からの回収3—特殊な保証（連帯保証、共同保証、根保証）		
第13回	債権の強制回収2—判例紹介（恒栄丸沈没事件、妻失火事件）	第29回	保証人からの回収4—判例紹介（兄弟会社の金融取引と保証人の求償事例）		
第14回	債権の強制回収3—債務不履行の効果（総説、強制履行の方法）	第30回	保証人からの回収5—連帯債務概説、民法改正（保証）の概要と課題		
第15回	債権の強制回収4—債務不履行の効果（損害賠償の方法）	第31回	定期試験		
第16回	債権法序説1—ガイダンス、債権法の意義と体系				

授業時間外の学習	1. まずテキストを通読すること（繰り返し通読することを薦める） 2. 毎回の授業予定部分について、私製配付の講義ノートを予習復習すること 3. 意欲する学生は「判例百選」「民法の争点」等での自学自習を深めること
履修条件受講のルール	1年次に「民法入門」「民法総則」を履修済みであること、加えて2年次に「物権法」を履修していることが望ましい。
テキスト	野村豊弘ほか著『民法III 一債権総論』（第4版）（有斐閣Sシリーズ）
参考文献・資料	私製の「債権総論講義ノート」（尚文堂）を授業開始時に教室で配付する。その他の参考図書は講義で適宜指示する。
成績評価の方法	期末試験（70%）+小テスト・レポート（20%）+受講態度等（10%）を総合して評価する。期末試験の出題形式は、空欄補充問題+基本事例問題を予定している。成績評価の方法または出題形式を変更する場合は、必ず事前に伝える。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	後日お知らせします。研究室に在室しているときは、いつでも質問・相談を受け付けます。
成績評価の基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	債権法は、物流・金融・決済など、現実社会における対人的な財産関係を規律する法分野であり、学んで必ず役に立つ法知識である。債権総論の理屈は小難しいが、その有用性に期待して意欲的に学ぶことしよう。授業に対する要望・意見があれば、遠慮なく申し出ること。法学部生の気概に期待している。

令和2年度 シラバス

科目名	物権法 (生活と物権)	科目分類	■専門科目群（第1グループ）
			□総合科目群（第2グループ）
英文表記	Property Law	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	たかはし ゆうすけ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	高橋 佑輔	実務家教員 担当科目	<input checked="" type="radio"/> 修得単位 4 単位
授業のテーマ	物に関する権利とその内容を学ぶ		
到達目標	物権の内容を理解し適切に説明することができる		
授業概要	物権法では、その名のとおり「物」に対する権利を取り扱います。「物」といっても、世の中にはノートや鉛筆からテレビ、自動車、不動産まで多種多様な「物」が存在します。また、人々の社会活動が多様化するに従い、「物」に対する権利も多様化しています。本講義では、社会内における「物」に対する権利について具体的な事例をなるべく多く提示しながら見ていきます。		
授業計画			
第1回	ガイダンス・物権法とは	第17回	地上権・地役権・永小作権・入会権
第2回	物権の本質・客体	第18回	共有
第3回	物権の目的および効力	第19回	担保物権総論
第4回	物権の変動①（発生と移転）	第20回	抵当権序説
第5回	物権の変動②（登記とその効果）	第21回	抵当権の効力
第6回	物権の変動③（民法177条①）	第22回	抵当権の処分
第7回	物権の変動④（民法177条②）	第23回	抵当権の消滅
第8回	物権の変動⑤（動產物権変動）	第24回	根抵当権
第9回	物権の変動⑥（明認方法）	第25回	法定地上権
第10回	物権の変動⑦（即時取得）	第26回	留置権
第11回	所有権	第27回	先取特権
第12回	所有権の取得	第28回	質権
第13回	占有の意義と種類	第29回	変則的担保総論
第14回	占有の取得・消滅と効果	第30回	譲渡担保・仮登記担保・所有権留保
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験
授業時間外の学習	・ 直前回の講義でふれた内容について、教科書の該当部分を読んで復習すること（1.5時間）。 ・ 教科書に記載されている判例については可能な限り内容を確認する。		
履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰで学ぶ範囲の知識は修得済みであることを前提に講義を進めます。 各回の配布資料は、事前の連絡なしで欠席した学生には配布しませんので、学生間でコピーする等してください。		
テキスト	小泉健『物権法概説』(春風社)		
参考文献・資料	『民法判例百選Ⅰ（第8版）』(有斐閣)、六法必携		
成績評価の方法	試験結果（中間50%，期末50%）に平常点（授業態度等）を加味して最終評価します。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料等を納めていない場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月曜日13:00～14:30・木曜日10:40～12:10		

成績評価の基準	平成28年度以降入学した学生：秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（50点以下） 平成27年度以前に入学した学生：優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（50点以下）
実務経験及び実務を活かした授業内容	平成21年弁護士登録 不動産明渡請求等の物権に基づく請求手続を扱った経験を活かし、社会内でどのように物権が行使されているかを取り上げながら講義を進めます。
学生へのメッセージ	物権法は不動産取引など社会にとって重要な活動にかかわる法分野でもあるので、本講義を通じて理解を深めてください。

令和2年度 シラバス

科目名	観光論入門 I	科目分類	■専門科目群（第1グループ）
			□総合科目群（第2グループ）
国際観光学科	■必修 □選択		
英文表記	Introduction to Tourism Theory I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	井上 寛	実務家教員 担当科目	修得単位 2単位
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう		
到達目標	1. 観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる 2. 観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
授業概要	国際観光学科入学後、はじめての観光について専門的に学ぶ科目です。これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。		
授業計画			
第1回	現代社会と観光		
第2回	観光を学ぶ意義		
第3回	観光の様々な効果		
第4回	旅と旅行・観光		
第5回	余暇・レクリエーション・ホスピタリティ		
第6回	観光を構成する要素		
第7回	観光資源と観光対象		
第8回	観光政策と観光行政		
第9回	国の観光政策と観光行政		
第10回	地方における観光政策と観光行政		
第11回	わが国におけるインバウンドの動向		
第12回	観光と国際社会・文化の関わり		
第13回	旅の歴史とこれからの旅行		
第14回	マスツーリズムからサステナブル・ツーリズムへ		
第15回	復習		
第16回	定期試験		

授業時間外の学習	<p><予習> 授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、教科書、参考文献、WEBサイトなどを活用し、予習をしてください。(90分程度)</p> <p><復習> ノートを確認し、テキストのself checkを使用し復習をしてください。(90分程度)</p> <p><その他> 新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに关心を持つて生活してください。(30分程度)</p>
履修条件 受講のルール	必修科目に指定されています。観光を学ぶ上での基本となりますので、国際観光学科1年生は観光論入門Ⅱ(後期)と併せてこの科目を受講してください。なお、毎時間参考資料を印刷したA4サイズのノートを配布しますので、バインダーを用意してください。
テキスト	JTB能力開発『観光学基礎—観光学入門のための14章』(第8版) 2019年 (2,260円+税)
参考文献・資料	週刊「観光経済新聞」 ※図書館1階にあります 観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankochō 日本政府観光局(JNTO) http://www.jnto.go.jp
成績評価の方法	<p>①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します</p> <p>②レポート課題(20%)…パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。</p> <p>③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。</p> <p>④取り組み姿勢(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な合は欠席扱いとします。</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週月曜日2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日3時限(13:00~14:30)
成績評価の基準	<p>平成28(2016)年度以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	2020年東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てました。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか?新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行したいま、日本の観光はどのように進むべきかを考える時期にきています。私たちはどのようにこの問題を解決すればよいのでしょうか。観光論を学ぶことにより、そのヒントが見つかるかもしれません。

令和2年度 シラバス

科目名	秋田県の歴史と文化	科目分類	■専門科目群（第1グループ）		
			□総合科目群（第2グループ）		
英文表記	History and Culture in Akita Prefecture	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	かまだ ゆきお	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	鎌田 幸男	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	秋田県の歴史と文化の変遷、文人の足跡を知る。				
到達目標	秋田にどのような人たちが住み着いたか。また秋田の歴史はどのように変遷したか。多くの史跡、人々の築いた文化、文人が見た秋田について知る。				
授業概要	秋田県の歴史の全体像に触れるが、特に中世末期から近世以降の歴史と文化と人物に視点をあてて考える。佐竹氏の転封、秋田の物産流通、穀倉地帯、鉱山地帯、それに油田や秋田杉の産出にも着目する。また八郎潟の干拓事業と農村、それに秋田の文化財にも触れる。講義の時間内に小テスト（20分程度）をする。				
授業計画					
第1回	秋田県の夜明け—地理的環境を知る				
第2回	出羽郡と出羽柵と秋田城を考える				
第3回	出羽国と平泉文化—清原氏と後三年の役から				
第4回	安東氏の秋田進出とその時代—秋田定着を考える（男鹿の染川城を考える）				
第5回	佐竹氏と秋田藩—佐竹義宣、城づくりと町割り				
第6回	秋田実季の足跡について				
第7回	藩の財政を支える—鉱山、秋田杉、穀倉地帯、油田など				
第8回	港の賑わい—北前船の往来				
第9回	近代秋田のはじまり—戊辰戦争と明治初年の秋田				
第10回	みちのく秋田の文化の概要を考える				
第11回	菅江真澄の足跡を考える				
第12回	佐藤信淵と平田篤胤の思想の概要を知る				
第13回	老農・石川理紀之助の足跡を考える				
第14回	秋田県の文化財と民俗文化財を考える				
第15回	戦後の秋田—変わり行く八郎潟干拓とその後				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	家の周辺、通学路など「道ばたの文化財」に関心を持つ。そして調べてみる。				
履修条件 受講のルール	郷土の歴史、文化、文人、また文化財などについて、関心と興味をもつ。				
テキスト	資料は必要に応じて講義のときに配布する。無断欠席の学生には配布しない。				
参考文献・資料	『秋田県の歴史と風土』創土社、『風土と文化』秋田県書店組合。				
成績評価の方法	① 定期試験 (60%)、②小テストを実施 (20%)、③レポート (20%)、①②③の総合評価をする。				
オフィスアワー	火曜日 14:40-16:10 *これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。				
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生				

	優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	史料館や博物館などの見学をしてほしい。

令和2年度 シラバス

科目名	旅行業法と約款	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）		
			国際観光学科	□必修	■選択
英文表記	Tour Business Law & Articles of Contract	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
ふりがな	みちはた ただよし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
担当者名	道端 忠孝	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	旅行業法の目的である旅行者の保護のしくみ（登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など）を修得し、また、格安の料金の（旅行会社の営業所などで配布されている、きれいな旅行パンフレットに掲載されている）募集型企画旅行のしくみを理解し、旅行会社の旅程管理義務のほか、旅行日程等の変更時の旅程保証金の支払責任や死亡時などの特別補償責任などを修得し、さらにそれらの問題点を考えることができるようになる。				
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、旅行業務取扱管理者試験の受験対策としての旅行業法・標準旅行業約款の理解ができる。 2、旅行業法の旅行者の保護のしくみ（登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など）が理解できる。 3、募集型企画旅行などにおける申込・契約及びキャンセルなどの基本のほか、旅程管理義務・旅程保証・特別補償制度などが理解できる。 				
授業概要	<p>本講義では、旅行業務取扱管理者試験の出題科目である旅行業法と標準旅行業約款を対象とします。旅行業法は、根本的には、旅行者の保護を目的にしていますが、その保護のしくみ（登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など）を明らかにします。</p> <p>また、旅行業約款は旅行業者があらかじめ定める契約条項ですが、現在、標準旅行業約款が用いられていますので、その内容のうち、募集型企画旅行・受注型企画旅行・手配旅行などについて講義します。</p>				
授業計画					
第1回	旅行業法、旅行業務取扱管理者試験の概要				
第2回	旅行業法の目的・体系				
第3回	旅行業法の規制概要				
第4回	旅行業の定義				
第5回	旅行業の登録など				
第6回	営業保証金と弁済業務保証金分担金				
第7回	営業上の規制①（旅行業務取扱管理者・料金規制・旅行業約款規制・標識規制）				
第8回	営業上の規制②（取引条件の説明と契約の規制・外務員規制・広告規制）				
第9回	営業上の規制③（旅程管理規制・受託契約規制・旅行業協会規制・行政処分・罰則）				
第10回	標準旅行業約款の概要				
第11回	募集型企画旅行契約①（申込・契約・キャンセル）				
第12回	募集型企画旅行契約②（旅程管理・旅程保証）				
第13回	募集型企画旅行契約③（特別補償）				
第14回	受注型企画旅行契約				
第15回	手配旅行契約・旅行相談契約				
第16回	定期試験				
授業時間外の	1、授業開始前に教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からぬ用語は調べてノートにまとめ				

学習	ておいてください。(1・5時間程度) 2、授業開始前に復習をし、整理しておいてください。(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に目を通し、切り抜き又はメモをしておいてください。(0・5時間程度)
履修条件 受講のルール	・可能であれば、国内・総合旅行業管理者の受験入門も受講して下さい。 ・テキストを購入して予習・復習をし、ポイント整理をしてください。 ・また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡なく欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。
テキスト	国際文化アカデミーJTB トラベル&ホテルカレッジ『旅行業務取扱管理者<総合・国内>テキスト&問題集』翔泳社
参考文献・資料	ユーキャン旅行業務取扱管理者試験研究会『2019年版旅行業務取扱管理者速習レッスン国内総合』U-CAN、トラベル&コンダクターカレッジ『らくらく解ける総合旅行業務取扱管理者必勝問題集』オーム社。その他、必要に応じて講義時に紹介する。
成績評価の方法	【小テスト(30%)、定期試験(70%)】以上の項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に何回か小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30~16:30 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成28(2016)年度以降に入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	実際に旅行する場合に、募集型企画旅行がどのように旅行パンフレットに掲載され、申し込みや契約がどのようになされ、旅行添乗員の動きなどをチェックしてみましょう。 また、国内旅行業務取扱管理者の資格を取得し、さらに総合旅行業務取扱管理者の資格を取得して、キャリアアップを図りましょう！

令和2年度 シラバス

科目名	アジアの観光地理	科目分類	■専門科目群（第1グループ）
			□総合科目群（第2グループ）
			国際観光学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
		学科	学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Tourist Geography of Asia	開講年次	■ 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	よこた けいざぶろう	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 ■後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	横田 恵三郎	実務家教員 担当科目	修得単位 2 単位
授業のテーマ	益々日本とアジアとの関連な観光交流が見通される中、似て非なる地勢、歴史、文化、社会等を抱える各国の特徴について理解し知識を深めることをテーマとするが、その手段として日本を含め多くの世界遺産を擁するアジア各国の遺産と観光に触れつつ進めていくこととします。		
授業概要	アジア各国の基礎知識、世界遺産の仕組み、代表的世界遺産、文化や習慣等に関心を持ち理解できるように、画像、映像等をも活用しながら講義していくこととします。アジア各国にはそれぞれに特徴がありますが、それらを学習してアジアへの理解を深めていきます。		
到達目標	各国の特徴ある地勢、歴史、文化や習慣についての理解を深めることができます。将来、学生の皆さんがあなたの国々を訪問することを想定して、予め知っておいた方が良い基本的な知識が得られます。		
授業時間外の学習	基本的な内容について復習テストを行ないます。日頃から旅行番組や旅行雑誌に触れるようにして下さい。		
履修条件	海外旅行や短期・長期の留学を考えている人や将来アジアと関係する仕事に就きたいと思っている人は是非履修してください。各国はそれぞれ異なる特徴を有しています。夫々を混同させぬよう復習を怠らないこと。		
授業計画			
第1回	ガイダンス アジアの定義		
第2回	アジア各国の国名・首都を正しくを知る 世界遺産とは		
第3回	復習テスト 世界遺産登録のプロセスと仕組み		
第4回	世界文化遺産、世界自然遺産、世界複合遺産とは①		
第5回	世界文化遺産、世界自然遺産、世界複合遺産とは②		
第6回	無形文化遺産、世界の記憶とは		
第7回	復習テスト 日本の世界遺産、無形文化遺産		
第8回	インドの観光地理と代表的世界遺産		
第9回	ベトナムの観光地理と代表的世界遺産		
第10回	タイの観光地理と代表的世界遺産		
第11回	インドネシア、マレーシアの観光地理と代表的世界遺産		
第12回	カンボジアの観光地理と代表的世界遺産		
第13回	中国・香港・マカオの観光地理と代表的世界遺産		
第14回	韓国の観光地理と代表的世界遺産		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	毎回、関連する資料を配布します。		
参考文献・資料	授業中に紹介します。		
成績評価の方法	定期試験 50%、授業態度・取組姿勢 50%とし総合評価します。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		

オフィスアワー	水曜日：2～3限(10：40～12：10、13：00～14：30) 木曜日：3～4限(13：00～16：10)
成績評価の基準	2016年度以降入学の学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年度以前に入学の学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	観光関連企業への就職を考えている皆さんはもちろんのこと、一般企業であれ公務員であれ社会に出ると必ずや海外とりわけアジアの国々（人々）との関わりがでてきます。その際に戸惑うことがないようにアジアの知識を身に付け、頭の中を整理しておきましょう。